

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース(大学院正規課程)						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、がん発症メカニズム・疫学から病理診断、放射線診断・治療、チーム医療による集学的治療、がん関連学際領域まで幅広くがん治療を理解し、学位取得後はがん実臨床の現場が抱える問題に対応しながら、がん患者を包括的な視点から診療できるがん専門医療人材。						
修了要件・履修方法	専門科目、共通科目、特別研究にて合計30単位を修得し、かつ中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文に合格すること。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目:共通科目として「生体防御・総合医学講座Ⅱ:発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース(仮)」の選択を必須とし、15回の講義・演習(1講義1.5時間)のうち11回以上に出席(2単位)。</li> <li>・選択科目:生体情報・機能制御医学講Ⅲ(緩和医療)(2単位)、<u>先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース(仮)</u>(2単位)ほか14科目</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、がん専門薬剤師(日本医療薬学会)、薬物療法専門薬剤師(日本医療薬学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで包括的がん診療を学ぶ課程であった「生体防御・総合医学講座Ⅱ」を、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療・サイコソロジー、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れその内容を大幅に再編成して「<u>発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース</u>」として拡充する。本コースは、がん患者を全人的、包括的に広い視野で診ることができる医療者の育成を主眼としている。</li> <li>・「<u>先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース</u>」は、本事業で新規に設置する正規課程である。講義形式に加えて、がんゲノム診断、免疫チェックポイント阻害剤、CAR-T療法の実習を実臨床の現場でOJTとして行う機会を設ける。とくに免疫関連有害事象(irAE)、サイトカイン放出症候群(CRS)、免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群(ICANS)などの症例検討を行い、<u>本学の強みであるがん免疫療法の領域に重点を置いている</u>。また、外来化学療法室においてirAE対策に関する実臨床を学ぶ。</li> <li>・がんゲノム医療連携病院として、積極的にがん遺伝子パネル診断を実践し、国立がんセンター中央病院や名古屋大学病院のエキスパートパネルに参加することで、より実践的な教育効果が期待できる。</li> <li>・講義をオンライン化してWebで配信することで、社会人大学院生が受講しやすい環境を整備する。全国的にも著名な外部講師を積極的に招聘する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専門科目の担当教員,本事業の担当教員ならびに学外招聘教員によるオンバス講義を行う。</li> <li>・本事業に特化した履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えて学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	大学及び地域の医療機関に定着して、がん実臨床の現場が抱える問題に対応しながら、がん関連学際領域にも対応できるがん専門医療人材として、がん患者を包括的な視点から診療する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	これまでの大学院志願者数及び入学コース調査から毎年度6人の希望者が見込まれるため、受入れ目標人数を8人と設定。						